

氏名	細井 由香 (ホソイ ユカ)
本籍	東京都
学位の種類	博士 (学術)
学位の番号	博士 第 065 号
学位授与の日付	2014 年 3 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	チュニジアにおける女性企業家とエンパワーメント ー地域開発アクターのエスノグラフィーー

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	鷹 木 恵 子
	(副査) 桜美林大学教授	牧 田 東 一
	桜美林大学教授	松 尾 昌 宏
	福岡大学教授	辰 己 佳寿子

論文審査報告書

論文目次

第 1 章 序論	1
第 1 節 問題の所在と本論文の目的.....	1
第 2 節 先行研究と本論文の位置づけ.....	4
1. 女性企業家に関する先行研究.....	5
2. エンパワーメントに関する先行研究.....	7
3. チュニジアの女性の経済活動と地域開発に関する先行研究.....	9
4. 本論文の位置づけ.....	10
第 3 節 研究方法論と理論的枠組み.....	12

1. マイクロ・エスノグラフィー.....	12
2. エンパワーメントの概念と本論文における分析枠組み.....	13
第4節 本論文の構成.....	18
第2章 チュニジアにおける地域開発政策と女性政策の変遷.....	21
第1節 ブルギーバ政権時代の開発政策.....	21
1. 社会主義政策から経済自由化政策への転換.....	21
2. 地域開発政策と地域間格差.....	24
3. 開発政策と女性の地位向上政策.....	25
第2節 ベン・アリー政権時代の開発政策.....	27
1. 構造調整政策とEUとの自由貿易協定.....	27
2. 地域開発戦略と地域開発プログラム.....	30
3. 女性政策と雇用促進.....	31
第3章 チュニジアにおける女性の経済活動の現状とエンパワーメント.....	34
第1節 女性の経済活動の現状.....	34
1. 統計からみた地域別および男女別の経済活動.....	34
2. 高学歴の若者と女性の雇用問題.....	39
3. インフォーマル・セクターにおける女性の経済活動の特徴と諸問題.....	40
第2節 低開発地域における女性の経済活動の現状.....	45
1. 女性の日常生活と生産活動におけるその役割.....	45
2. 女性の社会・経済的ニーズと制約要素.....	60
第3節 女性企業家育成政策と女性のエンパワーメント.....	62
1. チュニジア政府によるエンパワーメントの捉え方.....	62
2. 女性の収入創出活動とその課題.....	63
3. 政府による企業家支援策.....	66
第4章 チュニジアの女性企業家のマイクロ・エスノグラフィー.....	72
第1節 文献調査からみた女性企業家の特徴とその活動.....	72
1. 女性企業家の進出の背景と女性所有の企業数の増加.....	72
2. 統計からみた都市部の女性企業家の状況.....	73
3. 女性企業家を取り巻く問題点と課題.....	76
第2節 現地調査の概要.....	78
1. 調査の目的.....	78
2. 調査内容.....	79

3. 調査協力者と調査実施期間	79
4. 調査実施地	81
第3節 都市部における女性企業家のマイクロ・エスノグラフィー	82
1. トゥズール市の陶器製造業 ―地域資源の新たな活用の試み―	82
2. ガベス市のナツメヤシ手工芸品の製造販売業 ―行政の研修制度を活用した成功例―	91
3. ネフタ市の染色絹織物の製造販売業 ―新商品開発の成功例―	96
4. トゥズール市の多品目伝統手工芸品の製造販売業 ―有力者とのネットワークによる事業の拡大―	102
第4節 農村部における女性企業家のマイクロ・エスノグラフィー	106
1. 輸出向けオリーブオイルの製造販売業 ―内陸部での起業の試み―	106
2. 品質重視のナツメヤシ手工芸品販売業 ―高校教師が起業するまで―	118
3. イグサ製バッグ製造販売業 ―有名デザイナーとの新商品の開発―	126
4. 伝統的織物ハラララの製造販売業 ―他県の伝統工芸品の地元への導入―.....	130
5. 伝統的織物マルゲームの製造販売業 ―事業拡大に伴う近隣者との軋轢を乗り越えて―	135
6. エナメル製陶器の製造販売業 ―ツーリストを対象としたビジネス展開の試み―	139
第5章 女性企業家のエンパワーメントと地域開発アクターとしての可能性	144
第1節 都市部の女性企業家のエンパワーメントに関する問題点と課題	144
1. 個人レベルのネットワークにみる分析と考察.....	144
2. 地域コミュニティーレベルのネットワークにみる分析と考察	145
3. 行政レベルでのネットワークにみる分析と考察.....	147
4. グローバル経済レベルでのネットワークにみる分析と考察	151
第2節 農村部の女性企業家のエンパワーメントに関する問題点と課題	152
1. 個人レベルのネットワークにみる分析と考察.....	152
2. 地域コミュニティーレベルのネットワークにみる分析と考察	153
3. 行政レベルでのネットワークにみる分析と考察.....	157
4. グローバル経済レベルでのネットワークにみる分析と考察	161
第3節 女性企業家のエンパワーメントの促進要因と阻害要因の考察	163
1. 都市部と農村部に共通する女性企業家のエンパワーメントの促進要因と阻害要因	163

2. 事業の成功・失敗例にみるエンパワーメントの促進要因と阻害要因	168
3. 女性企業家の企業理念の違いとエンパワーメント — ビジネス志向型と芸術志向型—	170
第4節 女性企業家の地域開発アクターとしての可能性	172
1. ジェンダー平等化に向けての役割	173
2. 社会ネットワーク化に向けた役割.....	175
3. 地域経済活性化への貢献.....	176
終章 本論文のまとめと提言	178
1. 本論文のまとめ.....	178
2. 提言	182
3. 今後の課題.....	188
謝辞	189
参考文献.....	I~XIV

付録

- 資料 1. 15 歳以上の男女別経済活動率と業種別活動率
- 資料 2. 男女別失業率
- 資料 3. 女性が所有あるいは管理する企業数の推移 (1962-1991 年 チュニジア)
- 資料 4. 聞き取り調査質問票 (1) (2)

論 文 要 旨

アラブ諸国の女性の経済活動率は、途上国の平均値よりもかなり低い現状にある。また多くの中東北アフリカ諸国では失業問題が深刻であり、そのなかでも女性は一般的に男性よりも厳しい状況におかれている。こうしたなか、近年、女性のエンパワーメントや男女同権に向けての有効な手段の一つとして、女性が起業することへの関心が高まっている。しかし、その実態については未だ僅かな研究しか為されてきていない。

本論文の目的は、中東北アフリカ諸国のなかでは女性の地位が比較的高く、「アラブの春」の発端ともなったチュニジアに焦点をあて、同国の女性企業家の実態について、現地でのフィールドワークに基づき、マイクロ・エスノグラフィーという手法を用いて明らかにし、また女性の起業活動を通じてのエンパワーメントの状況を分析し、さらに女性企業家の地域開発アクターとしての可能性について検討することにある。同国の女性企業家の実態についての研究は、中東アラブ諸国の女性企業家研究へも一つの参照枠組みを提供する学術的意義をもつものである。本論文での論旨は、女性たちがどのような目的で起業し、どの

ような事業を展開し、事業実施の過程でどのような問題や課題を抱え、さらにそれらをどのように解決し克服したのかを現地での観察や聞き取り調査から明らかにし、事業を通して女性企業家がどのようにエンパワーメントされたのか否か、さらには彼女たちの地域開発アクターとしての可能性についても検討し、それらを踏まえて、チュニジア女性企業家への日本の開発支援についての提言を述べるという内容となっている。

本論文での研究調査手法であるマイクロ・エスノグラフィーとは、女性による起業という特定トピックを中心に詳細なエスノグラフィーを描き出し、それを資料として提示しつつ、起業過程での問題や課題、人々の意識を束縛している諸力、あるいは現状を変革していく力を評価し解明するという解放のスタンスをもつものである。またエンパワーメントに関する分析の理論的枠組みには、グリスコムを理論を発展させて採用し、女性企業家の人と人との関係性とそのネットワークに注目して、エンパワーメントの状況を 1)個人、2)地域コミュニティ、3)行政、4)グローバルという 4 つのレベルから、それぞれ把握し分析考察している。

本論文の章立て構成は、以上のような問題の所在、本論文の目的と意義、先行研究、研究方法論と理論的分析枠組みについて述べた序章に続いて、第 2 章ではチュニジア独立以降の地域開発政策と女性政策の歴史的変遷について述べている。第 3 章ではチュニジアにおける女性の経済活動の現状とエンパワーメントについて、統計や文献研究に加えて、低開発地域での自らのフィールドワークに基づき、その現状を明らかにしている。第 4 章ではチュニジアの女性企業家の具体的なマイクロ・エスノグラフィーとして、都市部の 4 名と農村部の 6 名の研究事例が報告提示されている。その資料提示に基づき、第 5 章では先に示した理論的分析枠組みに従って、企業活動を通じてのエンパワーメントの状況や問題点などを 4 つのレベルから考察し、都市部と農村部との相違点やまた共通点、さらに女性企業家のエンパワーメントの促進要因と阻害要因を明らかにしている。また女性企業家の企業理念の特徴をビジネス志向型と芸術志向型とに類型化しており、両者の理念にそれぞれ地域開発アクターとしての可能性や地域活性化への貢献の糸口を見出している。終章は「本論文のまとめと提言」と題し、本論文の内容を総括したうえで、チュニジア女性企業家のモノづくりや人づくりへの日本の開発支援への独自の政策提言を述べるかたちで締め括られている。

論文審査要旨

アラブ・イスラーム圏の女性企業家の実態研究は日本でも数少なく、本論文のテーマ設定の重要性とその調査研究の困難さを考慮すれば、チュニジアでの長年の現地調査を踏まえた本論文には十分な学術的価値と独創性が認められる。またジェンダー研究、チュニジア地域研究、開発援助研究の分野へもそれぞれ学術的貢献が認められる。まずジェンダー研究に関しては、女性が起業し事業の展開過程でいかにエンパワーされていくかをマイクロ・エスノグラフィーの手法で定性的に示し、促進要因と阻害要因などを明らかにした点

が評価できる。チュニジア地域研究としては都市部と農村部の双方で現地調査を実施し、それぞれの課題や共通点を明確にした点、さらに開発援助研究としては、地域性や固有文化にも配慮した政策提言がなされている点が優れている。なお、課題としてはエスノグラフィーに女性企業家の男性家族成員や周辺の人々の情報が含まれればより膨らみが増したことや、また地域間格差の拡大は悪という先入観が強すぎるのではという疑問などが指摘された。これらに対しては、リプライシートにより最終試問に先立って応答が適切になされた。以上のことから、本論文はテーマ設定の重要性、資料のオリジナリティ、論旨の一貫性、分析考察の学術的貢献度からも、博士学位授与に十分値する学術的水準にあると評価され、「合格」と判定された。

口頭審査要旨

最終口頭試問においては、論文提出者による論文概要の説明に続いて、質疑応答がなされた。チュニジアの女性企業家の抱える問題は日本の場合にも当てはまるのではという質疑があり、それに対してチュニジア男性のもつ家族扶養の強い義務観やイスラーム社会特有の伝統的規範についての説明があった。また開発援助の政策提言については、具体的などのタイミングでどのように行うかの質問があった。それについては女性企業家の地域開発アクターとしてのモノづくりへの潜在能力に触れ、それをチュニジアで既に JICA によって導入されている国際協力プログラム「一村一品プロジェクト」などへとどう繋げていけばよいかについての説明がなされた。いずれの質問にも、今後の課題と研究の発展的方向性を認識しつつ、的確に応答しているという評価がなされた。また審査員の一人からは、企業家を一様に商人とは捉えず、芸術志向型の企業家もいると捉え、そこに地域開発推進アクターとしての可能性を読み取っている点がマイクロ・エスノグラフィーの批判的アプローチの成果であるとの高い評価も得られた。以上のように、口頭審査においても研究の独創性と分析考察の妥当性が評価され、今後の研究の発展にも多くの期待が寄せられ、博士学位授与に値する学術水準に十分に達しているとして、審査員全員一致で「合格」と判定した。